

千瓢

The Senpyo

富山県立大学同窓会機関誌
第10号

発行日: 2015年(平成27年)7月15日
発行: 富山県立大学同窓会 会長 野開勝政
編集: 「千瓢」編集部 [編集長 池上 勁]
住所: 〒939-0398 富山県射水市黒河 富山県立大学内
電話: 0766-56-7500 FAX: 0766-56-0396
メール: senpyokai@pu-toyama.ac.jp
URL: http://tpu-dosokai.jp/

巻頭対談

野開勝政同窓会長×荒木甫前同窓会長

これからの同窓会

富山県立大学の初代同窓会長として、千瓢会時代を含め20年間同窓会を牽引してこられた荒木甫氏。昨年8月に2代目同窓会長として就任した野開勝政氏。今回の対談は〈野開勝政×荒木甫〉新旧会長対談。(2015年4月22日、県立大学で)

20年間ご苦労さまでした

野開 今日は、新旧の同窓会長の対談を企画したところ、ご多忙の中、荒木前会長さんにはお時間を割いて頂きありがとうございます。早速ですが、荒木さんは同窓会長を何年やっておられたのですか。

荒木 千瓢会の会長を11年、富山県立大学の同窓会長を9年で、20年になります。

野開 20年ですか、本当に長い間ご苦労さまでした。

荒木 こちらこそ、会長を快く引き受けていただいて、大変に喜んでおります。

野開 荒木さんとはボーイスカウトのお世話をしていた頃からのご縁だったと思います。でも、何故私に白羽の矢が立ったのか疑問でしたが、熱意に負けたのが本音です。大役を引き受けるか断るかについて諸先輩方にも相談し悩みに悩んだ結果、これも母校との何かの縁なのかなという思いで引き受けることにしました。



荒木甫氏(左)と野開勝政氏

荒木 そう言ってもらえると嬉しいです。ボランティア活動全てに言えることですが、組織がある以上は誰かがやらなければならないことであり、まして自分の卒業した学校に関わることでありますから、やるやらないの次元の話ではありません。今まで同窓会に関

目

- 1 巻頭対談 野開勝政同窓会長×荒木甫前同窓会長
これからの同窓会
- 5 理事長就任のご挨拶
公立大学法人富山県立大学 理事長 寺井 幹男
- 6 「ささやきコーヒー」の開発
産学連携教育コーディネーター 山田 恵宣
- 7 竹炭コーヒーについて 環境工学科2014年卒 福富真美子
- 7 はてな?クイズ
- 7 ありがとうございます
- 8 私の好きなもの 岩井 学/野村 睦/遠藤 和夫
- 9 大学ニュース
- 10 研究室の近況案内
知的インターフェース工学講座/情報メディア工学講座/
応用生物プロセス工学講座/環境デザイン学講座/
エコデザイン工学講座/
- 12 同窓会日誌
- 13 会長就任の挨拶 富山県立大学同窓会会長 野開 勝政

次

- 13 「大きな時代の流れの中で」(退職にあたり)
教養教育 教授 佐藤 幸生
- 14 探しています(会員住所不明者の一覧)
- 18 内山晃先生を偲んで
農業機械科2回生、1965年卒、富山大学名誉教授 山本 健市
- 19 「中国・大連での企業研修」レポート
和泉のどか/尾山 武史/武田深太郎
- 22 平成26年度同窓会総会を振り返って
平成26年度総会実行委員長 吉野 靖(電子工学1期生)
- 23 退職のご挨拶 岡田敏美
- 23 岡田先生退官にあたり
富山県立大学工学部情報システム工学科
石坂 圭吾(2期生)
- 24 平成27年同窓会総会のお知らせ
- 24 声
- 24 編集後記

題字は浦野泰子さんにたのみました。浦野さんは富山県立大谷技術短期大学の応用数学科の1期生です。

野開 勝政 (のびらき かつまさ)

富山県立大学同窓会 会長

昭和52年3月～ 富山県立技術短期大学
農林土木科第6回卒業

昭和52年4月～ 小杉町役場勤務

平成17年11月～ 市町村合併により射水市役所へ

平成22年4月～ 射水市役所都市整備部都市計画課長

平成24年4月～ 射水市役所都市整備部次長

平成26年4月～ 射水市役所上下水道部次長

平成26年8月～ 富山県立大学同窓会会長就任



わってこられた方は、皆さんそのような思い出やっ
てこられたと思います。

野開 会長としての20年間、多くのご苦勞もあつたと
思いますが、印象に残っていることは何ですか。

会費制の導入と、一本化した同窓会のスタート

荒木 大きなものを挙げるとすれば、やはり、会費制
の導入と、千瓢会と工学部の同窓会が一つになり、
富山県立大学同窓会としてスタートしたことでは
うか。

野開 一緒になるまでの経緯をお聞かせ下さい。

荒木 県立大学短期大学の最初の卒業生が出る段階
で、大谷技術短期大学と県立技術短期大学の卒業生
との三者で千瓢会という同窓会を平成4年に作り、
機関誌「千瓢会だより」の第一号を発刊しました。そ
の時には工学部にも千瓢会に入りませんかとお誘い
したのですが、工学部は卒業まで2年あることから、
もうすこし考えさせて欲しいとのことでした。2年
が経って工学部の1期生の卒業時、もう一度確認し
たのですが、工学部は工学部で同窓会を作るとい
うことで、千瓢会と工学部同窓会の2つの同窓会が
出来ました。その時から卒業式などには、千瓢会会長
の私と工学部同窓会長の2人が同席という状態が続
いておりました。

野開 ひとつの大学に2つの同窓会が存在するという
のは不自然ですよ。一本化にしようとしたきっかけ
は何だったのですか。

荒木 千瓢会は恒常的に幾つかの問題を抱えておりま
して、その中で最も大きなものは財政的な問題で
した。収入は入学時に入る同窓会費だけでしたので、
学科の改編により入学者の数が減るとともに会費収
入が減り、活発に活動すればするほど費用が増えて、
結果として財政が逼迫してきたのです。その解決策
として年会費制を導入したのが、平成10年からで、
当初は30数パーセントの納入率で好調にスタートし
ました。それから千瓢会の運営にはいろいろな智
恵を絞り活動を続けておりましたが、短大部の学科
の縮小が今後も続く見通しから、先行きに一抹の不
安を感じつつあった、そんなときに、大学当局から
「工学部の同窓会が千瓢会との合併を考えているが
千瓢会としてはどうか？」との問いかけをいただき、
工学部の同窓会の幹部と話し合う機会を作っていた
いただきました。当時の工学部同窓会も同窓会を運営す

る面での人材不足という大きな問題を抱えておりま
した、富山県内で活動できる人が少ないのと、転勤
等で富山を離れなければならないことから、継続し
た活動ができないという状況にあったのです。調整
に2年半をかけて合併が成立したのが平成17年です。
工学部同窓会の会長であった高田さんに副会長をお
願い、私が会長ということで富山県立大学同窓会
がスタートをしました。

奥田先生や東野事務局長の親身なお世話

野開 それぞれ問題を抱えていたのですね。合併する
には大変な気苦勞もあつたと思いますが、一方では
お世話頂いた方もいたのではないですか。

荒木 特に奥田先生や東野事務局長さんには親身に
なってお世話をいただきましたし、当時の両同窓会
の役員の皆さんにも大変にご苦勞をおかけしまし
た。お世話になりました。

野開 話が前後しますが、短大時代の千瓢会でもご苦
勞があつたと聞いていますが。

荒木 なるべく多くの方に同窓会の総会や懇親会に参
加してもらうために、平成13年からはブロックの持
ち回り方式に取り組みました。

野開 その前はどんなやり方だったのですか。

荒木 それまでの総会は、五年間の在学期間に区切る
とか卒業年度別の集まりを主体に開催していたので
すが、それをブロック別開催方式に変更してみました。
富山県内を富山ブロック、高岡・氷見ブロック、
新川ブロック、上婦負ブロック、新湊・射水ブロッ
ク、砺波・小矢部ブロックの6つに分けたのです。
ブロック内という限られた範囲であれば、顔見知り
も多いことからこれまで以上にまとまった形での人
集めも出来るのではないかと考えました。

野開 それでどうでしたか。

ブロック別開催方式

荒木 初めは上婦負ブロックで、柞山明(農学科・1976
年卒)さんを中心に進めていただきました。総会の
記念講演は江森陽弘(ジャーナリスト)氏に頼み、
環境問題を取り上げました。柞山さんは、この機会
をとらえて同窓会を世間一般にPRしたいとの強い
思いから講演を一般公開にして地域の皆さんに参加
を呼びかけた結果、多くの方の参加をいただきました。
また地元のケーブルテレビと連携して環境問題
の番組を一緒に作ったということもありました。

次の年は砺波・小矢部ブロック(竹林伸高実行委
員長)が担当して中西進氏(現高志の国文学館館長)
の万葉集の講演。新湊・射水ブロック(岩橋喬実行
委員長)は中尾哲雄インテック社長の講演。富山ブ
ロック(岡田滋実行委員長)は鏡森定信富山医科薬
科大学教授の講演。新川ブロック(前田喜芳実行委
員長)はプロ野球解説者の中畑清氏の講演。さすが
にこのときは定員を超える参加があり好評でした。
ブロックの持ち回り方式の最後は平成18年に、高
岡・氷見ブロック(浜田一雄実行委員長)が担当し

て、作曲家の聖川湧氏の講演をいただきましたが、この時は2次会までお付き合いをいただき、歌も聞かせていただきましたね。

野開 ブロックの持ち回り方式はどうなったのですか。

荒木 ブロック方式は予想を超える大きな成果をみましたが、ブロックの世話役の負担があまりにも大きいとの声もあり、一応一回りをした段階で、次の新しい方式を模索することとしました。

野開 昨年、お盆の総会に初参加したのですが、大勢の参加者で盛会でしたね。

荒木 それまでは、現役の学生さんにも懇親会に参加してもらうことが出来るということで、大学祭と合わせて開催していましたが、前総会では、県立大学卒業の実行委員の皆さんの新しい感覚で卒業生が集まりやすいお盆を狙った日に設定して行っていただきました。これが時宜を得た取り組みとなり大正解(大盛会)で、大変に嬉しく思っております。

野開 これからもお盆の時期に総会を開催して行こうと思っています。ところで、他県にも同窓会支部みたいなものはありますか。

同窓会支部活動

荒木 関東地区に、関東千瓢会と云う支部的な組織が在り、今でも小橋(農学科1968年卒)さんが中心になって動いておられると思います。私もかなり早い時期でしたが参加をさせていただきました。大学のパンフレットなどをキャスターが壊れるほど積んでいったことを忘れることが出来ません。職場単位では、吉田工業に「YKK太閤会」という会があります。大谷技術短期大学1期生の山本憲司さんの働きかけでできた会で、大谷技術短期大学・県立技術短期大学・県立大学工学部・県立大学短期大学の同窓生の会で、合併して富山県立大学同窓会になる前から、それを先取りした集まりでした。その他にそれぞれの科が対象の同窓会が幾つかありました。現在もingであるかどうかは別として少しお話をさせ

荒木 甫(あらか はじめ)

富山県立大学同窓会 前会長

昭和40年 富山県立大谷技術短期大学

衛生工学科第1回卒業

平成43年 大阪工業大学土木工学科編入卒業

昭和43年 県職員勤務

平成16年 県職員定年退職

平成16年 初代富山県立大学同窓会会長就任

現在 (株)中部建設 特別顧問/(株)吉田組 相談役



ていただきます。県立技術短期大学農林土木科と県立大学短期大学部農業技術学科農業土木専攻の989人の同窓会で、「緑成会」という名称でなかなか活発な稼働をしておられました。富山市役所勤務の方々が作った「大谷会」、県庁勤務の衛生工学科卒業生による「衛工会」、農業機械科1964年から1968年の同窓生で作られた「創世会」。機械科第7期生(1970年卒)の同窓会「M7会」等があったように記憶しております。

野開 私も「緑成会」の一員でしたが、平成21年に短期大学部の4年制化移行とともに解散しています。そのような会や支部と同窓会の関係はどうなっていますか。

荒木 ご要望があれば名簿をお渡しするという情報面でのお手伝いが主です。内心では金銭面でのお手伝いができればと思っていましたが、千瓢会時代は諸般の事情で適いませんでした。先ほどもいいましたように、東京での集まりにも顔を出させていただきましたし、中京圏の集まりで名古屋へも顔を出してまいりました。また、昨年の総会を契機に県職員の会を作ることが出来ないのかとのお願いもしております。それなりに支部造りの種は蒔いてあるつもりでおりますので、新しい時代を迎えた、新しい会長さんには、ぜひ支部体制を確立していただき、物心両面での結びつきの強固な物にしていただくよう



総合建設コンサルタント

北建コンサル株式会社

測量・調査・設計・補償

代表取締役社長 鷲 北 慎 一

本 社：〒933-0941
高岡市内免3丁目3-6

TEL:(0766)23-3666(代) FAX:(0766)23-3987
支店/射水・南砺・東部・小矢部・金沢

水門・橋梁・除塵機・消雪設備・取水設備・ミニ発電設備・バイオ関連事業
設計・製作・施工



水機工業株式会社

代表取締役 大井 茂



本 社 富山県富山市黒崎172番地
TEL (076) 491-2533(代)
FAX (076) 423-3368
営業所 小矢部・金沢
ホームページ: <http://www.suikikogyo.co.jp/>



みんなの
よい食
プロジェクト

富山県JAグループ

総合建設コンサルタント



信頼のおける技術で社会に貢献する

株式会社 建成コンサルタント

代表取締役会長 東 原 寛
代表取締役社長 瀬 川 光太郎

本社 〒933-0014 富山県高岡市野村 284-1
TEL 0766(25)6097 FAX 0766(25)5697

をお願いしたいですね。

野開 荒木さんの思いを形にしたいですね。荒木さんが同窓会に対して思っただけでこられたことはどんなことですか。

同窓会の4つの柱

荒木 同窓会には4つの柱があると思います。1つ目は当然のことながら会員に愛される同窓会であり、2つ目が大学の力になれる同窓会、3つ目は同窓会予備軍たる在校生に慕われる同窓会、最後の4つ目が地域社会に貢献出来る同窓会であるべきだと思っています。

野開 資料を見ていましたら、同窓生はすでに1万人を超えています。それぞれの地域でいろんな分野として立場で地域に大きく貢献され活躍されていると思うのですが。

荒木 多方面、多分野という点では、これからが楽しみなのかもしれません。

野開 卒業生は自分の卒業した学校に対する誇りと愛着があると思うのですが。

荒木 その気持ちを強く芽吹かせ、さらに大きく育つお手伝いをするのが同窓会の役割ということで、そのための水とか肥やしになればと思ってやってきたのですが。

同窓会の進むべき道

野開 これからの同窓会の進むべき道を、会長としての立場で考えているのですが、今年の総会で学長が挨拶の中で、「今までは中国等アジアの方々との交流を深めてきたが、これからは一層グローバル化を進め、英語圏との交流も深めたい」と言っておられましたので、同窓会としても協力したいと思いました。

荒木 学校が同窓会に期待しているのも目に見える協力だと思うので、ぜひ前向きにお考えをいただければよろしいのではないのでしょうか。

野開 在校生の海外研修等の補助も必要と思います。

荒木 将来同窓会の会員になっていただく在校生に直接関わることなので、これからの同窓会活動にも大きなプラスになると思います。

法人化後の大学と同窓会

野開 今年から大学が法人化になりましたが、何が変わるのかよくわからない。

荒木 私の思いでは、教育というハード面は変わらないと思いますが、ソフト面、特に運営面で大きく変わったのだと思います。今までは公務員であるという縛りや、基本が県費であることから支出には県の承認が必要といった縛りがあったのですが、それから解放されることによって、これまで以上に民間との共同研究の自由化なり、研究費の調達もある程度は自由に行うことが出来るようになったのではないのでしょうか。

実は私が去年会長を退いたのは、法人化を迎える

その前にぜひとも新しい会長さんにバトンタッチをしなくては考えたのです。長くやってきたこともあります、やはり新しく法人化を迎える大学の同窓会としては、新しい感覚で同窓会を引っ張っていただく方が必要だとの思いから野開さんにお頼みをしたのです。

野開 これからは少子化が進み、大学間競争も一層激しくなり、優秀な生徒の取り合いになると思います。しかし、本校の就職率はほぼ100パーセントに近いという実績も在り、特色ある大学として努力されています。同窓会としてどういった応援が出来るか大学とも話し合い協力していきたいと思っています。

話は横道にそれますが、私が通っていた頃は太閤山住宅団地の造成工事や県民公園太閤山ランドの建設中でした。当然、パスコやコンビニもなく道路状況もよくなかった時代でした。私は家が短大に比較的近かった為、最初の頃は自転車通学していましたが、その後、従姉が不要になった車(ホンダN360)を無償で譲ってくれたのをきっかけに車通学に変わりました。当時、学生のほとんどが小杉駅から徒歩通学だったのでよく友人を小杉駅へ送ったりしていました。親に無理を言って進学した為、学費は全てバイト代で補い両親には負担かけないよう気遣っていました。荒木さんの学生時代はどうでした。

荒木 当時は小杉駅から太閤山温泉行のバスに乗るか、自転車か、あとは加茂社の方をぐるーっと回っての徒歩でといったところでしたね。自分も基本的には自転車でしたが、農繁期以外は兄が使っていた「クロガネベビー」という軽四トラックを通学に使っていました。大学の前に停まっているのは、私の「クロガネベビー」と女性教員のピンクの「キャロル」の2台だけと云う時代でした。ベビーはキャンプファイヤーの薪運びや友達を荷台に乗せての遊びなどなど結構活躍しました。授業の面では未だ施設が整ってなく、小杉中学のプールを借りて泳いだり、未完成の住宅団地の敷地をグラウンド代わりに使用したり、女池まで走ったりとか施設の無い中でそれなりに工夫をして頑張っていたように思います。思いもかけずに懐かしくも楽しい話をさせていただき心が暖かくなりました。話は尽きませんが、野開会長さんにはこれからもお元気で同窓会のお世話をしていただきたいと思っています。

最後にこれからの同窓会活動はどういったものにしたいて考えておられますか。

一緒に作り上げる同窓会

野開 荒木さんからご縁があつて引き受けた以上は期待に応えられるように、頑張りたいと思いますが自分一人では何も出来ないと思っています。幸い私の周りには若くて優秀な役員が揃っていますので一緒に考えていきたいと思っています。とりあえず今年は何れも合併10周年の節目の年でもあることから初めてとなる同窓会名簿の発刊と英語圏への留学生にも補助していきたいと考えています。

私は生まれも育ちも本校と同じ黒河地内であり、小学生の頃から大学周辺で遊んでいた記憶もあり本校は身近な存在でした。自分の成長とともに大学が大きく進化し発展してきたのが嬉しく思っています。

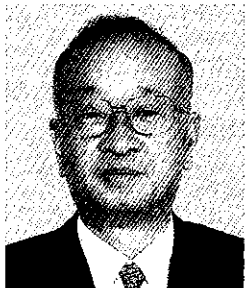
恩師が全て退官されてからは足が遠のいていたのですが、みなさんも同じだと思います。遠のいた足を学校に向かわせる魅力的な同窓会そして本校発展

に少しでも寄与出来ればと思っています。

荒木前会長には貴重な時間を割いていただきありがとうございます。今後とも顧問の立場としてもご指導ご協力お願い致します。

理事長就任のご挨拶

公立大学法人富山県立大学 理事長 寺井 幹 男



富山県立大学同窓会の皆様には、ますますご健勝でご活躍のことと存じます。

富山県立大学は、本年4月から公立大学法人となり、これに伴い、私が理事長に就任しましたので、どうぞよろしく願います。去る3月までは、

富山県教育委員会の教育長を務めておりましたが、引き続き教育関係の仕事に就かせていただきましたので、これまでの経験を活かし本学のさらなる発展に向けて精一杯努力する所存であります。

富山県立大学は、前身である富山県立大谷技術短期大学の創設から53年、平成2年に現在の4年制大学になってから26年目を迎えました。

今日まで、学生諸君や教職員の努力、地域や企業の皆様の温かいご支援により、教育、研究、地域連携を積極的に推進して実績を上げ、就職に強い大学、研究力の高い大学として高く評価をいただいております。そして、本学で学んだ卒業生が、産業社会の担い手として各方面で大いに活躍していることを大変うれしく誇りに思っております。

現在は、グローバル化が進展し、また、18歳人口の

減少により大学間の競争が一層激化する中で、大学にはより実践力のある人材育成が求められています。こうした中、本学は、県民の皆様や産業、社会の期待に応え、地方創生の一翼を担ってさらに飛躍していくため、このたび公立大学法人となり、本学を支援いただいている企業経営者等を経営陣に迎えるなど経営体制の強化を図りました。

この法人化にあたって、今後6年間の中期目標を定め、①学生を大きく伸ばす教育力の高い大学（地域産業や国際社会で活躍する人材の育成）、②未来を志向した高度な研究を推進する大学（ERATO事業等の最先端研究や地元企業との共同研究）、③広く開かれ地域に貢献する大学（地域の知の拠点）を目指すこととしています。さらに、今後、学生定員の拡充と施設整備を計画し、より一層魅力ある大学となるよう積極的な運営に努めてまいります。

少人数教育による丁寧な指導、自治体や企業との連携協力、優れた教育環境など、本学の強みをさらに伸ばし、教職員一同が力を合わせて中期目標の達成に努力してまいりますので、同窓会の皆様の温かいご支援ご協力をよろしく願います。

同窓会会員の皆様の今後ますますのご健勝、ご多幸、ご活躍を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

緑を育み、未来へつなぐ



株式会社 サカエグリーン

SAKAE GREEN CORP.

代表取締役 山本 栄

〒930-0171 富山県富山市野々上150番地
TEL (076) 434-0036
FAX (076) 434-4968
HP <http://www.sakaegreen.com/>

サカエグリーンはカタレ富山を応援しています

TOYOGASmeter

都市ガス・LPガス用 各種膜式マイコンメーター
超音波式マイコンメーター
集中監視システム・ガス関連保安機器



東洋ガスメーター株式会社

代表取締役社長 水越 靖

本社 〒933-0295 富山県射水市本江2795 電話0766(86)0531
<http://www.toyogasmeter.co.jp/>

ゆたかな経験 確かな技術



総合建設業
中越興業株式会社

代表取締役 山下 頌雄

本社 富山県南砺市野口800番地 TEL (0763) 62-1221
FAX (0763) 62-1222
富山支店・金沢営業所

建設コンサルタント



株式会社 上智

代表取締役 社長 楠 則夫

本社 砺波市千代176-1 TEL (0763) 33-2085・FAX (0763) 33-2558

「ささやきコーヒー」の開発

産学連携教育コーディネーター 山田 恵 宣

地域連携センターは地域と大学を繋ぐ窓口であり、毎日いろいろな相談が飛び込んでくる。

ある日、大学周辺で竹林整備を行い、伐採した竹を使って竹炭の生産をされていた方から「高齢になり、竹炭窯を誰かに引き継ぎたい……」という相談があり、大学周辺の定年者に声を掛けた。

いきなりの話ではあったが、20名余りの技術者、地域の方などに賛同を戴き、受け継いだ竹炭窯を小杉青井谷地区に移設し平成25年9月射水市長を招いて、竹炭窯の火入れ式をするに至った。集まったメンバー達(名称:きららかネットワーク)は現役時代第一線の技術者達であったが、竹を焼いた経験はなかった。何度も試焼きを行い、なんとか商品として販売できるレベルになった。竹を利用した商品の前例はいくつかあるが、竹炭や製造過程で出る竹酢液は、苦勞のわりには安価で販売され、それでも売れないのが実態である。勿論、放置された竹林整備で里山保全に貢献することも目的でもあるが。

そこで、若い意見を取り入れようと、竹の付加価値を上げる方法について学生を招き、話し合うことにした。当時、本学の女子学生であった福富真実子さんは、竹炭の効果を知り、コーヒーと竹炭パウダーを配合することで、「笹と竹をもっと身近に感じて欲しい……」と話した。彼女自身がコーヒー苦手ということも大きな要因であった。

竹炭とコーヒーのブレンドをどの様にすれば飲みやすいか、成分的にどう変わるか、コーヒーが苦手な人にも飲んで欲しい。商品にするには、何を、誰をターゲットとして商品化をしなければならない。商品化のコンセプト・販売のターゲット・ビジネスモデルだけでなく、収益計算に悩むことも多かった。

射水の竹は食することができないか、竹や炭の成分に不良成分がないか、ダイオキシンは、セシウムは、大腸菌などの菌数はどうか、分析も行った。その中で、竹炭により通常のコーヒーよりもカフェイン含有量が少ないという事もわかった。

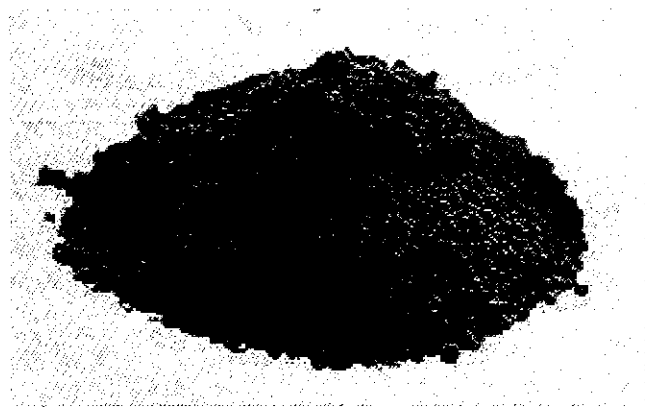
すこしずつプロジェクトは進み、プロにもお願いをし、味の均一化の専門家(射水市きときと市場、セブンラック 加治宏美店長)の指導も受けた。

竹炭パウダーにたくさんの思いが繋がり、ドリッブコーヒーに竹炭パウダーを配合した「ささやきコーヒー」が仕上がった。竹炭のちからで雑味をとりさったまろやかな風味で、ゆっくりと安らぐ、……カップ一杯に、富山の精零な雪解け水がはぐくんだ竹を一本一本、窯で手焼きしています。いつしかコーヒーが苦手であつた福富さんも「ささやきコーヒー」を口にするようになっていた。素敵なお人とこのコーヒーを飲みながらささやきたい、と冗談も言えるまでになった。

「ささやきコーヒー」は、インターネットで販売されており、新湊きときと館のセブンラックで飲むことができます。また、竹炭を配した竹炭パン・竹炭そば・竹炭パウダー・竹炭アイス・竹炭スイーツ・竹炭コロッケなどの商品が次々に生まれ、地域のカフェ、レストランなどで工夫をこらした自慢の一品として提供されています。ミネラル豊富な竹炭パウダーは、10~15ミクロンと微細なため。さまざまな食材に合い、体の有害物質を排出するデトックス効果のある食材として販売されています。



ささやき竹炭コーヒー



竹炭パウダ

ささやきコーヒープレゼント

読者3名に「ささやきコーヒー」(飲み比べセット)をプレゼントします。ささやきコーヒー希望と書いて、はがきまたはメールで応募して下さい。
〒939-0398富山県射水市黒河 富山県立大学内「千瓢」編集部。(8月末消印有効)

竹炭コーヒーについて

環境工学科 2014年卒 福 富 真美子



竹炭の試験中 福富さん

無事4年生に進級し、そろそろ就職活動が始まるかという時に山田先生から声をかけて頂きました。一度も地域連携センターを利用した事がなく、とても緊張したことを覚えています。私はもともと射水市出身で、生まれ育った地元で何か恩返しができたらと思って大学に入学しましたが、

今回商品開発に取り組んだ黒河の竹についてはなんとなく知っている程度でした。しかし、きららかネットワークのみなさんにお会いし、意見交換を行っていく内に、一緒に新しい射水の良さを作りたいと思うようになりました。

竹炭は粒子を細かくする事によって食品に混ぜ込むことができ、無味無臭であるため色々な商品が案として浮かびました。そしてその中で学生に親しみのあるコーヒーと竹炭をブレンドしてみたいと思いました。竹炭にはコーヒーのカフェイン含有量を減らし、味をまろやかにする効能が期待できたからです。また私自身、コーヒーの苦みが最大の苦手であったため、自分が美味しいと感じるコーヒーを作りたいと思いました。

しかし、ただコーヒーに竹炭を入れても人々が飲みたいと思うものにはなりません。

どんな人に売りたいか、どんな割合で炭を配合すればいいのか、値段はいくらにすればいいのか等考える事はたくさんありました。普段なんとなく目にして商品も一つ一つに作った人の気持ちが込められているのだと感じました。プロのコーヒー屋さんで指導して何度も試飲し、ようやく満足のいくコーヒーになった時はとても達成感がありました。

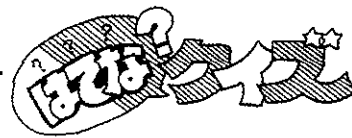
また、できあがった商品パッケージには黒河の竹という文字が入り、竹炭コーヒーは地元の皆さんの思いがたくさん詰まった商品になったと感じています。

是非、一度竹炭コーヒーを飲んでみてください。



(広告掲載企業一覧)

株式会社岡本清右衛門商店、株式会社建成コンサルタント、北建コンサル株式会社、株式会社サカエグリーン、株式会社上智、株式会社中部設計、株式会社新日本コンサルタント、水機工業株式会社、中越興業株式会社、東洋ガスメーター株式会社、富山県農業協同組合中央会、山本理化



富山県立大学で毎年行っている「中国・大連での企業実務研修」は今年の8月研修で何回目になりますか。(ヒント・今号の研修レポートを参照して下さい)

答えは ○回目

☆はがきで〒939-0398富山県射水市黒河富山県立大学内「千瓢」編集部へ答えと住所・氏名を書いて応募下さい。正解者10名に図書カード(500円)進呈。正解者多数の場合抽選。締切8月末(当日消印有効)。答えと一緒に「千瓢」の感想も書いて下さい。メールでの応募、同封のはがきでの応募も可。

「千瓢」9号クイズ当選者発表

<第9号クイズ>

富山県立大学には幾つの学科がありますか？(ヒント・富山県立大学には機械システム工学科、知能デザイン工学科、情報システム工学科、生物工学科、環境工学科があります。)

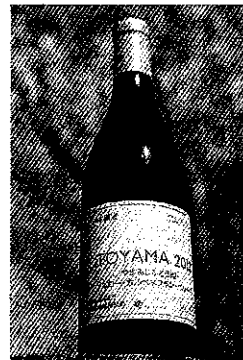
答えは 5学科です。

正解者は以下の方々です。(敬称略)図書カードをお送りしました。おめでとうございます。

早川俊一・荒永隆司・宮崎 光・江尻康浩
舘身果

ワインプレゼント 富山県立大学共同開発商品

富山県立大学の先生が発見した酵母を使ったワインが、やまふじぶどう園ホウライサンワイナリー(富山市婦中町)から発売された。「TOYAMA 2013」はメルロー、カメルネブラン、ベリーAの三種の葡萄から造られた赤ワインです。読者3名にワインをプレゼントします。ワイン希望と書いて、はがき、メールで応募して下さい。〒939-0398富山県射水市黒河、富山県立大学内「千瓢」編集部。前回のワインプレゼントの当選者は藤田人志(富山市)、深沢広治(高岡市)、早川俊一(富山市)



✈️🎧🎵🍷👤🌟🌟🌟 私の好きなもの 🍷👤🌟🌟🌟

岩井 学 (いわい まなぶ)

富山県立大学工学部知能デザイン工学科 准教授

①フットサル

同年代の仲間や学生達とフットサルをやっています。欧州の国際会議では会期中にフットボールゲームがあり、世界の研究者達とプレイをしました。観客も大興奮で、欧州のサッカー文化を実感しました。大人になっても子供の時とプレイスタイルが変わらないのに、「オレがゴールを決める！」という「わがままプレイ」は、おじさん世代になると勝手に身に付くようです。

②水溶性気分高揚液（お酒）

学生や企業の方々との交流に欠かせないのがお酒です。良い潤滑液となって交流を滑らかに進めてくれます。新しいテーマや共同研究はお酒の席で見つかることが多いです。飲む量と食べる量はほどほどにしたいです。

③マラソン

40歳にして富山マラソン（11/1）に挑戦しま

す。練習時間を確保し、少しずつ長く、速く走られるようにし、完走したいです。中間地点が自宅の近所なので、ここで心が折れないかが課題です。「近況」

教務委員を仰せつかり、2年目。研究をメインにしてきましたが、学生が立派な技術者に育ってくれるよう、教育にも注力するようになりました。近年は、地元企業が抱える問題を学生が解決する連携授業や上級生が下級生のレポートをチェックする「よろずレポート相談所」に取り組んでいます。



欧州の国際会議中に行われたフットボールゲーム（筆者は前列左端）

野村 睦 (のむら まこと)

短・生物生産・1997年卒

①コーヒー+お菓子

コーヒーは毎日欠かせません。最近はドリップパックばかりですが、一時期は豆選びから始め、ミルで挽いて、手落しでドリップしていました。蒸らす時間やお湯の温度、落とす速度で味が全く違ってきます。香りにも、味にも癒されます。仕事の合間にコーヒーのお供で食べるお菓子もやめられません。ブラックコーヒーと一緒に食べる甘いお菓子は最高です。

②漫画&映画

りぼん、なかよし、少コミ、ジャンプで育った私。短大時代はサンデーやマガジンを愛読していました。しばらく遠ざかっていたのですが、コミックレンタルを利用するようになり、返却時にまた借りてのループにはまり中。映画は、映画館で観たいのですが、なかなか行けないこの頃、何とか時間を作って行くぞ！との気合を込めて、ここに載せてみました。

③カフェでの一人ランチ

お気に入りのカフェで一人ランチするのが楽しみの一つ。贅沢な時間が、「明日からまた頑張ろう！」と、自分を奮い立たせてくれます。

遠藤 和夫 (えんどう かずお)

大谷技術短期大学 農業機械科5期
1968年（S43）卒

① オーディオ遊び

これは小学生の時に父が買ってくれた「鉱石ラジオ」のキットに端を発します。

半田付けを教わりながら組み立てて、古めかしいヘッドフォンをつけ、庭に張ったアンテナを繋いでバリコンのツマミを回すと、何とラジオの放送が聴こえてきました！

この時の感動と喜びは忘れられません。高二になった頃に、友達から「真空管ラジオ」の作り方を教わり、雑誌「初歩のラジオ」を買って、今流

に言えばリサイクルショップに通って部品をかき集め「五球スーパー式」ラジオ、更にアンプ・レコードプレーヤー・スピーカボックス作りに夢中になっているうちに成績がダウン。

それでもこの「オーディオ病」は小杉町に下宿中も続き、結局治らずそのまま今に至り、「45歳となる自作の真空管のアンプ」でレコードを聴くことを楽しみとしています。

② 写真遊び

これも雑誌「小学三年生？」の付録の「紙製のピンホールカメラ」を組み立てて試したら庭の風景が画像に写ったことに嬉々としていました。すると、そんな自分を父は「異臭のする押し入れ」の中に連れ込んで、「現像」と「焼付け」など写真ができるまでの一連の作業を見せてくれたのです。

興味津津…まるで手品を覗いているようでしたが、少しずつやらせてくれるようになり、面白くなってしまったのです。更に父が愛用していた「蛇腹式カメラ」を渡されて構造と操作の基本を教えられました。「距離」はフィートで目測、「絞り」と「シャッター速度」も明るさや、写すものによって、カンで決める…等等。

そして短大での卒論の研究の中で、乾燥した「穀物」にX線を照射、言わばレントゲン撮影して内部の状態を調べるため、フィルムを現像する時に大いに役立ったのです。

社会人となって給料を貯めて初めて買ったカメラ「PENTAX-SP」には大いに楽しませてもらいました。しかし退職する頃にはデジタルカメラの時代となり、フィルムカメラも引退せざるを得ず、多数の機材が「飾り物」となり現在は不本意ながら「デジタルカメラ」を使用しています。

③ 修理ごと

これまた小学5年生の頃、父は中古スクーターで農業試験場に通勤していましたが、時折日曜日にそのエンジンをいじり始め、再度組み立てるのを私は傍らで好奇心をもって見ていました。その際に「構造」や「工具の使い方」など講義？をしながら、実技？もやらせてくれたことが私の「も

のいじり好き」の原点の一つとなったと思います。“物を直す味を覚えた坊主”は見様見真似で家の中のちょっとした修理をして祖母に喜ばれるのが嬉しかったものです。短大の先生方の講義や実習で学び、更に小杉町の金物店での貴重な社会科実習を体験し、やがて就職した機械メーカーで研究開発の仕事を通して実に多くのことを学び体験することが出来たことはとても幸運でした。（詳細は書くこと終わらないので機会があれば後ほど…）

お陰さまで、家電品・水道・ガス・車、その他の整備や修理は趣味の一環として愉しんでおります。例えばこの冬、着火不良となりカミさんが廃棄するというファンヒーターを、たった800円程度の部品を交換して快調に着火！、復活を果たし満足している次第です。

《近況報告》

怪我で手書きが困難な今はパソコンと格闘？しながら、主に撮り貯めた写真の整理をやったり、だやなるとなごなったりして過ごしている状況です。

また、自分一人の微力さ、そして励ましや手伝ってくださる方々の有難さをつくづく感じながら、日々感謝の思いで生活しております。

(2015年5月記)

大学ニュース

● 役職教員

- 理事長 寺井 幹男
- 学 長 石塚 勝 教授
- 副学長・工学部長 松本三千人 教授
- 学生部長 中村 清実 教授
- 副学生部長 中川 佳英 教授
- 工 学 部
 - 教養教育主任教授 石森 勇次 教授
 - 機械システム工学科主任教授 坂村 芳孝 教授
 - 知能デザイン工学科主任教授 野村 俊 教授
 - 情報システム工学科主任教授 松田 弘成 教授
 - 生物工学科主任教授 加藤 康夫 教授
 - 環境工学科主任教授 楠井 隆史 教授

● 昇 任

- 工 学 部
 - 情報システム科 中田 崇行 准教授
 - 知能デザイン科 高野 博史 准教授
 - 生物工学科 奥 直也 講 師

● 新規採用

- 工 学 部
 - 教養教育 山崎 大介 准教授
 - 古澤 之裕 講 師
 - 植田 浩明 講 師
 - 機械システム工学科 杉岡 健一 講 師
 - 遠藤 洋史 講 師

● 退 職

*平成27年3月31日をもって退職されました。
長い間お疲れ様でした。

- 岡田 敏美 先生
 - 平成2年4月～9年3月 工学部助教授
 - 平成9年4月～平成27年3月 工学部主任教授
- 佐藤 幸生 先生
 - 昭和51年4月～55年3月 技術短期大学職員
 - 昭和55年4月～平成4年3月 技術短期大学助手
 - 平成8年4月～11年3月 短期大学部講師
 - 平成11年4月～18年3月 短期大学部助教授
 - 平成18年4月～19年3月 工学部助教授
 - 平成19年4月～平成27年3月 工学部教授
- 上谷 保裕 先生
 - 昭和50年4月～昭和55年3月 技術短期大学助手
 - 昭和55年4月～平成元年9月 技術短期大学講師
 - 平成元年10月～平成4年3月 技術短期大学助教授
 - 平成4年4月～平成12年3月 県立大学総合研究所助教授
 - 平成12年4月～平成19年3月 工学部助教授
 - 平成19年4月～平成27年3月 工学部准教授
- 九里 徳泰 先生
 - 平成21年4月～平成27年3月 工学部教授
- 須田 孝司 先生
 - 平成21年4月～平成27年3月 工学部准教授
- 萩田信二郎 先生
 - 平成15年4月～18年3月 工学部助手
 - 平成18年4月～22年3月 工学部講師
 - 平成22年4月～27年3月 工学部准教授



研究室の近況案内

知的インタフェース工学講座

森重健一講師

私の研究室では、脳から機械へ、あるいは機械と脳の間で直接信号をやりとりして、脳神経の機能を補完するインタフェース、いわゆるブレイン・マシン・インタフェースの基礎研究を行っています。

脳の活動に伴って、頭の中で微弱な電気信号が流れ、その信号は頭皮まで伝わり、頭皮表面で電気的な変化を引き起こします。その電気的な変化を計測したものを脳波と呼び、私たちが日々行っている運動や判断など様々な脳活動の情報が詰まっています。しかし、脳波に含まれる脳活動の信号は極めて小さく、様々なノイズに埋まれています。例えば、私たちがキョロキョロと目を動かしたり、首の筋肉を動かしたりするだけでも、大きな電気的なノイズが発生し、そのノイズの大きさは脳活動と比べて10～100倍程度もあります。それらのノイズの影響は大きいため、脳波を使ったブレイン・マシン・インタフェースを実現するためには、何らかの方法で対処することが不可欠です。そこで私たちの研究室では、脳活動を反映した信号をノイズから分離して、脳活動の信号だけを取り出す技術開発に取り組んでいます。

知能デザイン工学科

また、ブレイン・マシン・インタフェースを実現するためには、取り出した脳活動の信号を解読する必要があります。私たちはパターン認識や機械学習の手法を応用して、ユーザーが「何をしたいのか」という情報を解読することにも取り組んでいます。

ブレイン・マシン・インタフェースは脳や神経系の筋萎縮性側索硬化症（ALS）や脊髄損傷の患者さんの意思表示方法として研究が始まり、現在は運動機能やコミュニケーション機能を補完するインタフェースの開発として研究が進められています。将来は、我々の日常生活に入り込んできて、日常環境下でも使えることが期待されています。その実現のためには様々な基礎的な問題を解決する必要があります。私たちはこれらの問題を一つずつ解決し、日常環境下で利用可能なブレイン・マシン・インタフェースの開発を目指しています。



2015年度研究室メンバー（森重研究室）
前列左が森重

情報メディア工学講座

唐山英明准教授

2009年4月に准教授として本学に着任し、新しい研究室を立ち上げてから、早いもので6年が経過した。この唐山研究室では、ヒトや動物が発する生体情報を利用して、従来になかったインタフェースを実現すべく研究を行っている。例えば、脳波によって考えるだけでコンピュータを動かす技術や、生体個人識別システムの開発などである。

これまでに、試行錯誤しながらも、約20名の学生を輩出してきた。教員である私・唐山英明（とうやま・ひであき）は、特に、厳格に学生を指導してきたという自負がある。時には叱咤激励を行ったので、煩わしく面倒な教員だと思われたこともあっただろうと思う。しかしながら、自主性を重んじ、根気よく、何事もあきらめないで取り組むことを体験して卒業していった学生については、今や社会で十分に活躍していると確信している。

「研究室の重要な仕事は研究である。」この考えは全く揺るがない。もちろん、地域貢献も重要であるし、教育も大学運営もまた大切な仕事だ。しかしながら、良い研究を行うことこそが教員に課せられた最も重要な義務であると思っている。この6年間、実を言うと、研究のバ

情報システム工学科

リエーションを増やすことに専念してきた。いわゆる種まきの時期と考えていたわけである。続く3、4年で大きな研究成果を出していきたいと考えている。幸い、優秀な学生が集まる研究室でもあり、また近年は他大学などの研究協力者にも恵まれつつある。是非とも、革新的な研究成果を目指したい。

今年度の研究室メンバーは実に元気が良い。これまでのメンバーの中で一番元気ではないだろうか。元気をもらえる。「楽しく、自分でやりたいことを決めて、やりなさい。」毎度、毎度、学生にはそのように言うことにしている。私自身も研究や教育を楽しむことができるか、そのこともとても重要であると思っている。留学生も含め、全国や世界中から人が集まる研究室にし、そして、世界に通用する研究者を育てることが次の大きな課題と考えている。研究活動によって情報システム工学科の発展に貢献できれば幸いである。



富山県立大学キャンパスにて 2015年4月撮影
(左から、範、松岡、作田、平、唐山、久保田)

応用生物プロセス学講座

生物工学科

伊藤伸哉教授、牧野祥嗣講師、戸田弘助教

良く学生さんから、「応用生物プロセスって何をやっているの?」「ラボ名から何を研究しているのかイメージしにくい」との質問を受けます。我々の研究室が主に研究しているのは、いわゆる「ものづくり」です。近年の地球環境保護への取り組みから、様々な医薬品中間体や化学物質を生物由来の酵素を用いて作り出す「バイオコンバージョン」や「バイオリファイナー」といった技術が盛んに研究されています。また医療の現場では、抗体医薬をはじめとして生物由来のタンパク質等を利用する「バイオ医薬品」が近年目覚ましい発展を遂げております。こうした医薬品中間体やバイオ医薬品の効率的な生産を目的として、有望な酵素遺伝子の探索・解析、遺伝子組換えによる酵素大量発現や組換え菌体を用いた生体触媒開発、代謝工学による物質変換効率の最適化、タンパク質モデリングによるバイオ医薬候補タンパク質の設計やそれらの効率的生産技術について日々研究を行っております。

当研究室は1992年の開設時は生体触媒化学講座として開設され、その後2006年の生物工学科新設に伴い現在の応用生物プロセス学講座へと改名されました。現在研究室は教員3名、大学院生1名、学部生7名、研究補助員1名で構成され、日々忙しいながらも楽しく研究を行っております。特に本年度は研究室の学生が全員女子とい

うこともあり、とても賑やかな毎日です(筆者は少々肩身が狭い思いですが…汗)。

これまでは主に、土壌から有用な酵素遺伝子を持つ微生物をスクリーニングし、そこからの酵素精製、遺伝子解析、大腸菌などによる酵素発現という流れで研究を行ってきました。近年ではゲノム解析技術やバイオインフォマティクスの発展に伴い、PCR技術により環境DNA(メタゲノム)から有用な酵素遺伝子を直接取得する手法を開発し、さらなる産業酵素の開発に利用するべく日々研究を続けております。



太閤山ランドでのBBQ(2015年5月撮影)

環境デザイン学講座

環境工学科

星川研究室

土地や水は人間の生存を支える最も基本的な資源で、その利用を誤れば環境問題や災害など、人間社会に深刻な影響が生じます。土地利用と環境を巡る問題といえは南米の熱帯雨林の破壊などを思い浮かべる方も多いと思いますが、富山をはじめ身近な地域にも無縁ではありません。例えば郊外へと無秩序に街並みが拡大し、水田が住宅地などに転用されれば、都心部では空洞化などが生じる一方で郊外では優良農地が失われたり、さらには水田の雨水貯留機能が失われることで氾濫被害の危険性が高まったりすることもあります。しかしだからと言って郊外への宅地の拡大を規制すれば、規制の緩い他地域への人口流出にもつながりかねず、このあたりのかじ取りが近年の人口減少社会の中では難しいところではあります。

我々の研究室では、富山をはじめとする国内外の様々な地域における土地・水利用上の課題と解決策を探っています。衛星リモートセンシング画像解析や空間情報解析、数値モデリングが主な研究手段ですが、現地調査や文献調査などを交え、様々な角度から対象地域を総合的に捉えたいという課題に取り組んでいます。私自身は昨年4月に県外から着任したばかりなのですが、卒業研究の課題としては、射水平野の土地利用変化にともなう時間排水量変化、射水市や高岡市の人口動態と土地利用、五箇山の土地利用の空間配置など、あえて富山の課題を中心に取り組んでもらっています。これは学生に地元富山のことを知ってもらうと同時に、私自身も学生の指導を通じて富山のことを勉強しようという考えによるもので

す。

私自身は東南アジアや中国などでの調査研究経験が長いので、一方でこの経験を活かして博士課程前期の学生1名には学部4年生のときからタイ王国チャオプラヤーデルタの土地利用変化と洪水被害の問題に取り組んでもらっています。今年5月には自身もメンバーとして加わっているSATREPS(地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム)の課題が採択されました。カンボジアのトンレサップ湖の環境保全の基盤を構築しようというもので、私はリモートセンシングを用いた土地利用図作成や湖の領域変化分析などを担当しています。

昨年4月に2名の4年生を迎えてスタートした本研究室も、今年3月に初めての卒業生1名を無事社会に送り出すことが出来ました。4月からは進学した1名を含む2名の大学院生と4名の学部学生を迎え入れ、にぎやかな体制で研究に取り組んでいます。多くの研究成果を発信する一方で、社会に対する洞察力と分析技術を身に付け、社会に役立つ人材を送り出していければと考えております。



川川左岸農地防災事業における調整池の見学



五箇山官沼集落の茅場の空間分布を地理情報システム(GIS)を用いて分析する

エコデザイン工学講座

小林一也准教授

工業製品は多くの人の手を経て作るために、その形状・精度・材質・組立など、製造に必要な情報を何らかの形で明確に表わす必要があります。その表現には従来から「図面」が用いられており、今でも機械工学に携わる者にとっては必須の知識ですが、2次元の図面では表現しきれない3次元形状を効率よく扱う必要が出てきました。自動車ボディの意匠曲面形状や、膨大な数の配管が入り組んでいる大規模プラントが、その例です。そこで3次元形状を含む製品情報を計算機内の「製品モデル」として表現する技術が1970年頃から盛んになり、CADシステムとして設計・製造現場で使われ、コンピュータ・グラフィックスとしてゲームや映像表現に活かされるようになりました。また、工作機械や産業用ロボットのためのプログラム生成や、力学的な強度を事前に検討するシミュレーションなどにも製品モデルが用いられます。

しかしながら多くの未開拓の分野が残っています。その一つが、モデルの「入力」、すなわちヒューマン・インタフェースに関するものです。特に、自由な立体造形を行なおうとすると、通常のPCではマウスとディスプレイという2次元機器しかないために、3次元の形状の入力が非常に困難です。そこで私の研究室では、AR(拡張現実)を用いた「デジタル粘土」(図1)や、ジェスチャー入力による自由形状変形(図2)などを研究しています。

図1は、小球の集合をモデル化し、これを「箸」でつ

かんだり、切り離したり、くっつけることで造形するシステム「HASHI」(Handling, Addition and Snipping Human Interface)です。ARは実写映像とモデル表示を自然に重ね合わせる技術で、ここでは操作者のあごの下に装着したカメラの映像を通じてモデリングします。この研究を精密工学会で発表した修論生はプレゼンテーション賞を受賞しました。

図2は、ゲームの入力機器Kinect2を用いてジェスチャーで形状変形を行なうシステムです。操作者は、Kinect2が抽出した両腕の形・両手の開閉・頭の位置を用いて、モデルをつかんだり、引っ張り・曲げ・ひねりの変形ができます。「操作者視点表示」という手法で、遠くのディスプレイ上のモデルは操作者の目の前のように表示しています。

実用化にはまだ多くの改良が必要ですが、難しい操作や特殊な装置を使わずに思い描いた3次元形状を直観的に扱えるようにすることを目指し、研究を進めていきます。

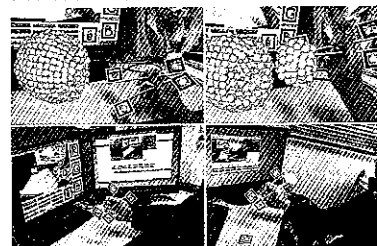


図1 ARを用いたデジタル粘土の操作システム「HASHI」



図2 ジェスチャー入力による自由形状変形システム

同窓会日誌

No.13

この日誌は富山県立大学同窓会の荒木薫事務局長の日誌です。

2014年11月23日～2015年5月13日

【2014年】

11月23日

今年度実行委員会の皆様の打ち上げでした。事務局では参加できませんでしたが、次年度の実行委員への引き継ぎもしていただき来年度に向けて動き出したところです。次年度も楽しみです。

11月26日

「千瓢」第10号に向けてそろそろ準備です。業者の方と打ち合わせです。中庭の紅葉が見ごろでとっても綺麗です。今年はまだ雪も降っていないし、暖かな冬であってほしいものです。

【2015年】

1月24日

次回同窓会の第1回実行委員会開催です。開催日程、場所の打ち合わせです。みなさんお忙しい中集まってくれました。開催準備が今から始まるのです。

3月5日

今年に入ってからの初の役員幹部会でした。来年度役員について、27年度同窓会についてでした。昨年度役員交代で沢山の方々が退任されたので次年度には新しく役員の方々が増える予定です。27年度同窓会の動きの報告も少し説明をしました。同時に同窓会総会へ向けて準備作業に追われていきます。

2月12日

今年度で退官、退職される先生方の確認をしました。もうそんな時期なのですね。まだ雪が降りしきり春には程遠いのですがもうすぐ春なのですね。

2月18日

名簿作成業者さんと打ち合わせです。校正やデータ資料を準備です。

2月25日

県立大学の試験日です。学生さんたちも休校、本館棟は立ち入り制限です。そんな中、卒業生は最終研究提出しに来て季節の変わり目を感じる今日この頃でした。

3月19日

先週は雪…春はまだかなと思っていたところ、すっかり暖かい風が吹き、退職される先生方のお部屋の片づけが始まり、週末は卒業式。入学の準備も始まり、終りと始まりの準備が一度にやってきました。旅立ちの季節ですね。

4月10日

池上編集長と打ち合わせ。今回の内容と原稿依頼の選定など。今年は名簿発行の準備もあり編集長には無理をして何度かご足労してもらっています。

そして、桜の季節が終わるといつも寒さが増してしまい、暖房の入らない古い事務局のある旧短大の事務所は冬に戻ったように寒いのです。

4月18日

今年度の同窓会に向けての実行委員の第3回目の打ち合わせに初めて参加させて頂きました。今年の実行委員長の方々との顔合わせです。すでに内容は進んでいて今回は参加申し込みはがきの内容を決め、発送日などでした。時間を作って運営して下さる実行委員の方々にはいつも頭が下がる思いでいっぱいです。

4月23日

今回の機関誌『千瓢』のメインを飾る、前荒木会長、新野開会長の対談が旧短大長室で行われました。

5月12日

同窓会名簿の編集と『千瓢』の打ち合わせです。名簿の編集が続いており千瓢が出遅れております。同窓会の準備も進みつつ、同時進行が今年が多いですね。

中庭もすっかり青々としてきました。あと少しで取り壊されるのがなんだか寂しいです。

5月13日

学生時代の教えて頂いていた林先生がいらっしゃいました。昔植えたハーブたちがどこにあるか教えて頂きました。三つ葉、ミントなど。もう今年が草刈りがすんでおり少ししかなかったものの、きっとすぐに伸びてくるので次回が楽しみです。

会長就任の挨拶

富山県立大学同窓会会長 野 開 勝 政



同窓会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年8月に開催されました通常総会において、荒木前会長の後を受け同窓会長に選任されました野開勝政です。

どうぞ、よろしく願い申し上げます。

大変重い職責ではありますが、母校に縁あって関わることになりましたので、微力ではございますが、本学の発展に少しでも貢献出来ればと思っています。荒木前会長におかれては短大時代から二十余年の長きに亘り本同窓会の発展にご尽力頂き、心から感謝申し上げます。

ご承知のとおり、県立大までの変遷と共に同窓会も平成17年に短大部の千瓢会と県立大工学部の同窓会が大同団結し、「富山県立大学同窓会」として設立されました。

これまでの卒業生は1万人を超え、様々な分野でそれぞれの立場にたってご活躍され、地域社会に大きく貢献されています。

同窓会発足以来、会則に掲げられている「会員相互の連絡、親睦及び啓発を図り、併せて富山県立大学の発展充実に寄与すること」を目的として活動されてきました。今後とも荒木前会長の敷かれた路線を引き継ぎ、この活動をさらに進めて行きたいと思っております。

これまでと同様に会報「千瓢」やホームページを通じての情報発信を行うとともに、同窓会合併10周年の節目を迎えたことから新たに同窓会名簿を発刊し、恩師、同窓生や在校生相互のつながり、そして「絆」を強める「架け橋」となるよう願っています。

さて、最近の経済状況や社会情勢さらには度重なる異常気象など社会環境・自然環境が大きく変貌する中、本学も本年度から法人化となりました。近年の少子化に加え一層の大学間競争に拍車がかかると思われますが、開学以来、卒業生の就職率はほぼ100%を堅持し、全国トップクラスを誇っています。

これからも時代の要請に応えた先見を見据えた有用な人材育成、イノベーションを描ける人材育成などの外、グローバル化も一層求められてきます。

さらには産・学・官の連携や特徴ある「地域協働型大学」の構築を進めるうえで、本学生と社会の接点のひとつである同窓会の存在意義はますます大きくなっていくと思われまます。

本同窓会は、皆様のよりどころの一つの拠点として同窓生の繋がりや母校への熱い想いを大切にするとともに、在校生の支援そして本学の発展に寄与し、地域に親しまれ愛される同窓会にしたいと思っております。

今後とも会員の皆様のご指導ご鞭撻そしてご協力を心よりお願い申し上げますとともに、皆様のますますのご健勝とご多幸、ご活躍を心からお祈り申し上げ、新任の挨拶とさせていただきます。

「大きな時代の流れの中で」

(退職にあたり)

教養教育 教授 佐 藤 幸 生



1976年4月、富山県立技術短期大学草農業科に、土壌肥科学実験と農場実習補助の教務職員として採用されてから、農学科(1980年)、富山県立大学短期大学部農業技術学科生物生産専攻(1990年)、生物資源学科(2003年)と3回の学科改組等を経て、

2006年3月までの30年間の大半、植物病理学を担当しました。

最初の1年を教員室の一角に間借りし、2年目に旧土壌肥科学実験室の1台の実験台で、卒業論文とうどんこ病(菌)研究をスタートしました。農学科への名称変更を機に、植物病理応用昆虫学実験が開講し、ようやく旧畜産学実験室の片隅の部屋を頂き、ビニールハウスで100ポットのアカクロバを育て、気持ちだけは元気に卒業論文と研究に取り組んだ事を思い出します。1990年、園芸学・植物病理学の共同実験室を頂いたときの喜びは、今でもはっきりと思い出します。

2006年4月に工学部教養教育に移ってから9年間、生物学を担当しました。大きな生物学実験室、準備室と研究室を自由に使用出来ましたが、この実験室が賑わったのは廃止直前の短大部専攻科の学生を担当した2年ほどでした。

1996年に講師昇格してから、非常勤講師として「生物学」を担当しましたので、工学部における「生物学」担当は、都合20年になります。この間、2007年3月に短大部生物資源学科が、翌年3月に同専攻科生物資源専攻が廃止になりました。

振り返れば、1961年に制定された農業基本法の「選択的拡大」を背景に、「農工の一体化」を旗印の基、県民の大きな期待を背負って創設された富山県立大谷技術短期大学から、呉西に置けるアルミ産業を中心とした地盤沈下に対する産業構造の再編あるいは転換をも目的として、新たな夢と県民の大きな期待のもと、富山県立大学工学部が開学しました。そして、私の退職で、富山県の高等教育機関における農学の教育研究が、幕を閉じます。

最後の一兵卒としての想いは、万感胸に迫るものが有ります。幾つもの荒波の中で、生物学研究室の歴史にただ1つの汚点も残すことなく、勤め上げられたのは、卒業生からの叱咤激励とともに、学の内外の方々の絶大なるご指導ご支援があったればこそと思っています。

大変お世話様になりました。本学の、今後益々の発展をお祈りして、挨拶とします。





探しています

住所をお知らせ下さい。(会員住所不明者の一覧です。)

- List of names and skills, organized by region (e.g., 安池野藤, 中川波田, etc.)

岡田	惠美	美枝	(技24農学)	工藤	綾子	(短11生物)	奥山	井上	雅子	(短10環境)	西百	善則	(大1997機械)
清館	史哲	枝也	(技24農学)	三西	美範	(短11生物)	山吉	上田	勝昌	(短10環境)	濟宅	愛俊	(大1997機械)
鎌倉	裕英	子俊	(技25農学)	見浦	悠里	(短11生物)	大ノ	崎宮	由紀	(短11環境)	山崎	直樹	(大1997機械)
杉西	田村	宏平	(技25農学)	山内	元沢	(短11生物)	二ノ	原崎	孝章	(短11環境)	結赤	聖裕	(大1997機械)
尾池	畑智	子幸	(技26農学)	林清	水山	(短12生物)	宮原	野田	美穂	(短11環境)	朝倉	英樹	(大1998機械)
上右	保井	幸一	(技26農学)	松吉	田涼	(短12生物)	明吉	田加	真希	(短12環境)	大金	将真	(大1998機械)
若金	井子	貢合	(技27農学)	大野	みのり	(短13生物)	須中	林田	清智	(短13環境)	川本	昇篤	(大1998機械)
島横	崎山	幸均	(技27農学)	大金	藤真	(短13生物)	安木	戸屋	優昌	(短14環境)	栗黒	且隆	(大1998機械)
横安	山藤	敏一	(技3農土)	木藤	修雅	(短13生物)	石井	畑山	真理	(短15環境)	須田	志規	(大1998機械)
増清	水原	幸二	(技4農土)	武篠	田尚	(短13生物)	大金	林島	理美	(短16環境)	佐藤	洋幸	(大1998機械)
曾井	手富	正実	(技5農土)	篠古	井多	(短14生物)	小中	澤平	由勇	(短16環境)	下諏	博之	(大1998機械)
福村	上山	誠温	(技6農土)	松河	井快	(短14生物)	平根	木村	里剛	(短16環境)	高鍋	謙太郎	(大1998機械)
竹川	田谷	朱起	(技7農土)	岡平	岡千	(短14生物)	米谷	松本	雄太	(短17環境)	丸山	和弘	(大1998機械)
姥矢	田田	司克	(技8農土)	馬原	田寛	(短15生物)	藤瀬	岡松	志温	(短17環境)	山田	尚俊	(大1998機械)
池岡	田田	平安	(技9農土)	篠林	口健	(短16生物)	北谷	美智	恵彦	(短18環境)	山渡	史雄	(大1998機械)
岡金	子田	研治	(技12農土)	樋佐	伯辰	(短1土木)	今西	井谷	佳七	(專1生物)	上野	修拓	(大1998機械)
黒谷	田野	真治	(技13農土)	桜梨	井木	(短2土木)	西門	脇子	如美	(專1生物)	金佐	元幹	(大1999機械)
中野	濱美	樹浩	(技14農土)	野板	澤垣	(短2土木)	金子	山友	佳子	(專3生物)	辻西	邦友	(大1999機械)
高与	三井	英彦	(技14農土)	桑原	村悟	(短5土木)	杉竹	中島	妙章	(專1環境)	宮室	玄武	(大1999機械)
小赤	吉田	太一	(技15農土)	田野	幸脇	(短5土木)	家川	川取	裕千	(專2環境)	山本	博久	(大1999機械)
宮西	川上	史裕	(技17農土)	荒島	田典	(短7土木)	小倉	倉功	透才	(專6環境)	青浅	純一郎	(大1999機械)
川川	上上	史良	(技18農土)	竹由	中妙	(短8土木)	小倉	山功	一才	(大1994機械)	小栗	志宏	(大2000機械)
広柳	川崎	浩志	(技19農土)	岩谷	口聖	(短8土木)	飛松	井本	秀一	(大1994機械)	佐々	隆也	(大2000機械)
勇			(技20農土)	家加	島好	(短9土木)	宮原	本孝	博之	(大1994機械)	高橋	大祐	(大2000機械)
			(技20農土)	小林	紗都	(短10土木)	山本	原隆	治明	(大1994機械)	竹腰	敏乙	(大2000機械)
			(技20農土)	川加	弘一	(短11土木)	奥野	川裕	拓也	(大1994機械)	坪新	敦平	(大2000機械)
			(技20農土)	中福	永川	(短11土木)	北熊	谷田	智宏	(大1995機械)	八安	明知	(大2000機械)
			(短1生物)	横小	林本	(短13土木)	宮岡	本居	豊誠	(大1995機械)	市岡	利仁	(大2001機械)
			(短1生物)	台野	村山	(短1環境)	龍角	岡林	淳潤	(大1995機械)	岡藤	康里	(大2001機械)
			(短2生物)	中野	中真	(短1環境)	小五	林本	雄二	(大1996機械)	藤山	浩僚	(大2001機械)
			(短2生物)	小小	森か	(短2環境)	佐塩	藤谷	一宣	(大1996機械)	井伊	勇二	(大2002機械)
			(短3生物)	小安	東規	(短3環境)	柴中	田川	邦和	(大1996機械)	上五	覚洋	(大2002機械)
			(短4生物)	木場	山美	(短4環境)	中島	根幸	浩達	(大1996機械)	須寺	伸也	(大2002機械)
			(短5生物)	小柴	崎優	(短5環境)	松水	野村	達弘	(大1996機械)	野村	英達	(大2002機械)
			(短5生物)	山方	根政	(短5環境)	吉野	村野	了明	(大1996機械)	檜居	忠喜	(大2002機械)
			(短6生物)	高本	瀬美	(短6環境)	奥金	野子	弘仁	(大1996機械)	広三	牧弘	(大2002機械)
			(短7生物)	山杉	山友	(短6環境)	水吉	奥柳	博誠	(大1997機械)	村伊	上康	(大2002機械)
			(短9生物)	森永	中加	(短7環境)	奥小	坂林	直史	(大1997機械)	尾原	祐樹	(大2003機械)
			(短10生物)	田徳	和咲	(短8環境)	坂中	名元	畑太	(大1997機械)			
			(短10生物)	和徳	由香	(短9環境)							

次ページにつづく

酒中長新林平宮官森山河北近田西北山青赤鷓江越前奧桶倉笹橋堀今仮谷野林吉西原深明金桶任水相井砂辻中平水佐竹川小戸森荒西丹麻勝高武水大加佐	井村島村池崎森岡崎野出藤村谷莊下山塚餉口谷堂本谷本内西谷原田野垣田深明金桶任水相井砂辻中平水佐竹川小戸森荒西丹麻勝高武水大加佐	豐人(大2003機械) 仁亮(大2003機械) 寬一(大2003機械) 哲千(大2003機械) 立圭(大2003機械) 智弘(大2004機械) 泰正(大2004機械) 一賢(大2004機械) 健太郎(大2005機械) 雄孝(大2005機械) 孝史(大2005機械) 喬久(大2005機械) 伸司(大2005機械) 美充(大2005機械) 玲伊(大2005機械) 健篤(大2005機械) 清剛(大2006機械) 徹介(大2006機械) 貴裕(大2006機械) 修司(大2006機械) 浩翔(大2007機械) 卓也(大2007機械) 伸悟(大2008機械) 永進(大2008機械) 翔旭(大2008機械) 志文(大2008機械) 貴平(大2009機械) 晋裕(大2009機械) 幸一郎(大2009機械) 慎吾(大2009機械) 充友(大2009機械) 光希(大2009機械) 賀基(大2010機械) 内聖(大2010機械) 坂亮(大2011機械) 修平(大2011機械) 一彰(大2011機械) 貴興(大2012機械) 良太郎(大2012機械) 大智(大2013機械) 諒哉(大2013機械) 貴雄(大2013機械) 拓智(大2015機械) 純也(大2015機械)	鈴須高東藤古邊松宮村上山岡田邊道山邊畑伯川地藤門田砂中西木村澤本渡池上牛大鈴永名福松山伊上内浦神菅杉東大岡尾加高竹西山小竹寺中野前增松	木岡野川見本崎上山岡田邊道山邊畑伯川地藤門田砂中西木村澤本渡池上牛大鈴永名福松山伊上内浦神菅杉東大岡尾加高竹西山小竹寺中野前增松	敬介(大2015機械) 成裕(大2015機械) 将吾(大2015機械) 友也(大2015機械) 昇平(大2015機械) 洋隆(大2015機械) 貴之(大2015機械) 哉也(大2015機械) 祐亮(大2015機械) 陽司(大2015機械) 了太(大2015機械) 惠美(大1994電子) 博史(大1994電子) 寛章(大1994電子) 貴光(大1995電子) 厚志(大1995電子) 知也(大1995電子) 茂樹(大1996電子) 聡次(大1996電子) 浩康(大1996電子) 紀和(大1996電子) 舞子(大1996電子) 麻子(大1996電子) 崇宏(大1996電子) 順一(大1996電子) 司弘(大1997電子) 実典(大1997電子) 浩幹(大1997電子) 康二(大1997電子) 伸一(大1997電子) 行雄(大1997電子) 正孝(大1997電子) 雅之(大1997電子) 祐二(大1998電子) 昌典(大1998電子) 正人(大1998電子) 也寛(大1998電子) 克宗(大1998電子) 和稔(大1998電子) 史幸(大1999電子) 敏也(大1999電子) 亮純(大1999電子) 恵理(大1999電子) 彦博(大1999電子) 高広(大1999電子) 修平(大2000電子) 誠大(大2000電子) 香大(大2000電子) 義輔(大2000電子) 陽平(大2000電子) 耕平(大2000電子) 奈緒(大2000電子)	寺崎宏美(大2000電子) 渡部忠司(大2000電子) 稻貴也(大2001電子) 北嶋了(大2001電子) 堀井雅俊(大2001電子) 東東誠(大2002電子) 田水裕(大2002電子) 清中彰(大2002電子) 田野優(大2002電子) 知辻慎(大2002電子) 宮崎和(大2002電子) 山口裕己(大2002電子) 奥野知(大2003電子) 岩本健二(大2003電子) 大原寿規(大2003電子) 上出壽彦(大2003電子) 前田聡(大2004電子) 市丸和格(大2004電子) 小木裕人(大2004電子) 内新啓(大2004電子) 波岡聡志(大2004電子) 上野紗織(大2004電子) 藤田智佳(大2004電子) 前角佐正(大2005電子) 荒井原正(大2005電子) 浦野暁英(大2005電子) 川島真之(大2005電子) 桐本和希(大2005電子) 中山研二(大2005電子) 納村憲一(大2005電子) 乘松良樹(大2005電子) 弘田桂太(大2005電子) 松田広大(大2006電子) 池永登(大2006電子) 水谷恭成(大2006電子) 池田悠介(大2007電子) 鬼頭美貴(大2007電子) 杉原慎太郎(大2007電子) 竹林敬典(大2007電子) 古谷丈史(大2007電子) 鈴木将克(大2008電子) 平谷輝夫(大2008電子) 見津邦弘(大2008電子) 渡本達郎(大2008電子) 木田見成(大2009電子) 後藤健一(大2009電子) 小高宏樹(大2009電子) 田島拓輔(大2009電子) 陳峰(大2009電子) 野原尚人(大2009電子)	羽根靖惠(大2009電子) 兵亮輔(大2009電子) 松優(大2009電子) 孟繁輝(大2009電子) 吉和真(大2009電子) 梁重鵬(大2009電子) 重竜作(大2010生物) 黒川優香(大2011生物) 新川雄志(大2011生物) 野上祥平(大2011生物) 川高橋菜々(大2012生物) 花房知翔(大2012生物) 藤原川智(大2012生物) 細尾実季(大2012生物) 松田知沙(大2013生物) 宇佐見有美(大2013生物) 北川山藤原和(大2013生物) 北佐萩青朝(大2015生物) 池端裕貴(大2015生物) 石田さやか(大2015生物) 岩崎春千(大2015生物) 菅原奈津希(大2015生物) 高平梨可(大2015生物) 田代山枝(大2015生物) 遠野架貴(大2015生物) 藤本由美(大2015生物) 三山下萌笑(大2015生物) 山田亜矢子(大2015生物) 吉岡千尋(大2015生物) 若杉実咲(大2015生物) 池田哲也(大2011知能) 内藤千達也(大2011知能) 平山彩佳(大2012知能) 北園本純(大2012知能) 塚村上麻衣子(大2012知能) 石黒基弘(大2013知能) 加藤知裕(大2013知能) 黒岩中(大2013知能) 西井健慶(大2013知能) 林松祐太(大2013知能) 森野村雅(大2015知能) 栗小田林春正(大2015知能) 佐々木勇翔(大2015知能) 佐藤木祐二郎(大2015知能) 野嶋優冬(大2015知能) 林有紀(大2015知能)
---	---	---	---	--	--	---	--

Table with columns for names, graduation years, and departments. Includes a section for '短6環境' (Short 6 Environment) with specific names and graduation years.

※()内について
(短6環境)
学名
卒業回
大谷...大谷技術短大
技...技術短大
短...短期大学部
大...工学部
院前...大学院前期
院後...大学院後期
お友達のお名前がありましたら住所をお知らせ下さい。

内山 晃先生を偲んで

農業機械科2回生、1965年卒業、富山大学名誉教授 山 本 健 市

本学元短期大学部教授・内山晃先生が今年（平成27年）1月26日に永眠されました。享年88歳（満86歳）でした。先生のご逝去に謹んで哀悼の意を表します。

内山先生は大谷技術短期大学農業機械科で私達がご指導を賜った恩師の一人です。卒業後に集まった同級会では先生から近況や親身で忌憚のないご意見を伺うことができ、これからも先生の人生哲学などまだまだ教えて頂きたいことがありましたのに、今ではそれも叶わず、寂しく残念な気持ちで一杯です。

先生は農業の機械化と農業機械技術者養成の重要性にいち早く着眼され、昭和25年に東京農林専門学校（国立大学法人・東京農工大学の前身）をご卒業後、富山県の公立高等学校教諭や研究員として勤務される間にも、東京大学農学部農業工学教室や京都大学農学部農業機械教室の各研究生として内地留学され、研鑽を積まれました。その実績により、先生は大谷技術短期大学の開学に先立ち、農業機械科の設置準備担当者に任命され（富山県商工労働部勤務）、開学に向けてご尽力なさいました。

開学（昭和37年4月）後は、短期大学において農業機械学、トラクター工学、農作業機械学など先生の専門分野の講義や、農業機械学会などでの研究発表、日中農業技術者交流協会代表、学科主任教授や改組後の短期大学部長などの重責を全うされ、大学の発展・国際交流に多くの貢献をされました。定年退職（平成6年）後も、先生の郷里である城端町教育委員会委員長などを歴任されました。このように生涯を教育・研究一筋に真っ直ぐ歩まれ、多くの人材を育ててこられた先生の情熱に深く敬意を表します。

私には先生から教わった忘れ難い思い出が幾つかあります。私は県立福野高校の出身ですが、実は、先生は同校での恩師でもあります。先ず、先生が同校に奉職されていた時のことで、一つ目は「プラウの大切さ」です。当時（昭和35年頃）、田圃の土壌を耕起するのに、耕耘機（2輪車）の後部に大概はロータリ（なた状の回転刃）を、あるいは僅かですがプラウ（すき、犁、plow）を装備して利用していました。先生は後者のプラウによる耕起がお得意で、耕起された畝は、実直な

先生のお人柄のように、真っ直ぐで土の状態は実に見事でした。地下深くに潜っていた土が、反転されて地表に現れ久しぶりに生き帰ったような気持ち良さを感じているようでした。先生は、“何か問題に遭遇したら、もう一度事象を深く掘り起こして検討しなさい。解決の糸口が掴めるよ。”と言っておられるように今思えるのです。

二つ目は「二枚のギザ十」です。二～三人で泊り掛けの実習の折、宿舎に来られた先生は、何か悪戯っぽい表情でやわらポケットから十円硬貨を2枚取り出して、“手品”を始められた（当時流通していた十円硬貨は、現在とは異なり、その周辺に歯車状のギザギザが付いていた、通称、ギザ十）。一方の硬貨Aを回転しないように手で固定し、他方の硬貨BをAの外周で滑らないように接触させながら1回公転させ、“さあ、Bは何回自転したか”と問われた。当然1回転と思いつ返したが、“それでは種明かし。もう一回ゆっくりとやってみよう。ほら、答えは2回転だ。これは、デフの原理だよ”と。デフ（差動歯車）は乗用4輪車の走行方向を円滑に変えるための重要な機構です。先生の手品は説得力があり、少年のように得意気な、茶目っ気ある先生の表情が今も忘れ難いのです。

三つ目は、短期大学での先生の試験問題「直径Dの車輪が段差hをゆっくりと乗り越えるのに要する水平方向の力Pはどれだけか」です。私は自分が受験した科目で出題内容を記憶しているのは、どういう訳か先生のこの一問だけなのが何か不思議です。“車輪が小さいと僅かの段差でもそれを乗り越えるには結構大きな力が必要。でも、段差に対して車輪の直径を相対的に大きくすると乗り越えに要する力は随分小さくて済む。”ことが分かる問題です。先生は、“工夫次第でどんな問題でも上手く解決できる。基本的な原理の理解は大事。”と言っておられたのだろうと思います。

斯様に、先生は大切な事について身を持って実に分かり易く教えて下さいました。先生から賜りました温かいご指導に感謝しつつ、先生のご冥福を心よりお祈り致します。



4回目

答えは富山県立大学の「中国・大連での企業実務研修」の実施回数です。ことしの8月研修で4回目になります。



▼先号の富山県立大学の葭田隆治客員教授と新湊かまぼこの共同研究商品「かまぼこチップス」のプレゼント当選者は酒井秀三・宮崎光・武藤玲子さんです。

▼同窓会にはホームページがあります。時々のおいてみてください。フェースブックもありますので最新情報を手に入れて下さい。



「中国・大連での企業研修」

→ レポート

2014年8月23日から9月6日までの15日間、富山県と大連YKKジッパー社との共催で、中国・大連での研修が行われました。参加した富山県立大学生3名のレポートです。(今回で3回目)

生物工学科	2年	和泉のどか
情報システム工学科	2年	尾山 武史
情報システム工学科	1年	武田溪太郎

(学年は当時)

GAPチャレンジプログラムに参加して 和泉のどか

私がこの研修に参加した目的は、企業や工場の情報を得る力を身につけ、自分と社会人の能力的な差を実感することです。以前瀋陽に短期留学した際にも、工場見学をさせていただく機会がありました。しかし、それまで企業や工場について詳しく調べたことがなく、注目すべき点も自分の中で定まっていませんでした。本研修で、見学や講演を聴く経験を重ねて、将来自分が社会人になったとき何を求められるのか、それまでに埋めなくてはいけない溝やGAPがどういったものなのかを理解するためにこの研修に参加しました。

今回の2週間の研修では、大連YKKジッパー社様にお世話になりながら、たくさんの企業経営者の方々からお話を聴きました。時々観光や中国語の勉強会などで中国のことを学び、歓迎会や座談会でチューターさん方と交流しました。途中研修生らで自主的に集まり、研修前半での感想や失敗談、アドバイスを共有しました。中盤では大連外国語大学の授業を体験し、学生さんの家にホームステイをして中国の日常を体験しました。何度か研修を重ねたあとに、仕事体験や製造体験もさせていただきました。

初日は大連YKKジッパー社様に社歴や工場の福利厚生、ジッパーそのものについて解説していただき、工場見学をさせていただきました。企業概要説明では充実した福利厚生や、「善の循環」の考え、経営理念について解説していただきました。私たちのために研修を実施していただける理由が掴め、自分たちが得べきものの多さを感じました。特に、中国の雇用事情の変化に対応するために、満足度ではなくエンゲージメントレベルの向上を図るという考えかたに驚きました。生産についても詳しく解説していただいたので、工場見学の際には機械や生産ライン、働いている人々以外の所にも目を向ける余裕ができました。そして、ほかの企業の工場見学の際にも工員が働き続けやすい環境について注目していくことにしました。

翌日の三菱電機様の工場見学では、工員らが書いたカラフルな掲示板が目立っていることに気が付きました。また、日本へ研修した記録や生産ラインの細かな

設備の改善などを掲示するスペースが多くとられており、関与した行員の名前もわかりやすく記述されていました。社員が働きやすくするために力を入れている部分が大連YKKジッパー社と少し違うのだと思いました。その後も様々な工場を見学していくうちに、設備投資や掲示物の違いが分かってきました。例えば、アパレルメーカーの工場では、製造している服によって機械や空間への投資の仕方に違いがありました。中国向けブランドから発注を受け、同じ服を大量生産する工場では、サンプルをつくるスペースが狭いが、生地のカンパニングをする機械などが導入されていました。対して、多数のスポーツメーカーからスポーツウェアの発注を受け、多種の服を少量ずつ生産する工場では、サンプルをつくるスペースや型紙やロゴのための機械が充実していました。工場を見ることで企業が力を入れている点を想像したり、企業の生産を見て工場環境を想像したりすることが自分で出来るようになるになれば、企業を評価したり、想像と違ったことについて突き詰めて考えられるようになるのではないかと思います。



大連ソフトウェアパーク

講演では、日本の企業が中国でうまく生きていくために、どのように中国の人々と接していけばよいかという点に注目して聴かせていただきました。日本の生産方法を、教え方や研修の方法を工夫することで時間をかけて定着させた企業もあれば、現地の人と意見をぶつけ合い、よりよい案を探していった企業もありました。また、軟銀思(大連)科技有限公司様は、多くの社員にとって外国語である日本語をマニュアルに使うことで、マニュアルをしっかりと読み込むようには

かっているという考えをお持ちで、とても驚きました。同時に、自分や日本の企業が外国に進出する意味を理解できていないのだと分かり、常に違う意義を考えていかななくては、物事の良さ悪さが見えてこないのだと感じました。また、講義の中では日本人の側のよくない点も多く聴くことができました。例えば、自分の意見や結論をはっきり言わない態度、失敗を恐れすぎる姿勢などが挙げられていました。私には間違っただけを恐れるのを恐れ、過度に予防線を張りながら自分の意見をいうところがあります。自身を含めて、日本にいる人がそういった態度があることに気が付いてすぐに改めることは難しいと思います。だからこそ、それが通用しない外国の社会に出ていくことが未来のために必要なのだと思いました。

大連YKKジッパー社様では、事務の仕事や生産の作業も体験させていただきました。仕事体験では、総務2課で、各部門から注文を受けた購買の仕事を体験させていただきました。ワークフローシステムで注文内容やそれに対する各社員の認可を確認した後、注文をする操作を体験させていただきました。ほかにも、卸売業者から受け取った品物の検査や、パンフレットを用いた新規購入品決定の手順を教えてくださいました。また、中国語で書かれた総務の仕事の規約書を辞書を使用しながら読みました。単純な文章でも読むのに時間がかかり、マニュアルが日本語ならばここまで懸命に読まなかつたらうと、軟銀思(大連)科技有限公司様の言葉の意味を痛感しました。また、午後からは食堂の管理やそのための研修について教えてくださいました。黒部YKKとのつながりを知ることができました。私の体験を担当してくださった社員さんや近くにいらっしゃったチューターさんは、自分の仕事をしながら、私にもできることを探してくださいました。また、業者さんや工場の各部門の社員さんとも出会うことができ、総務は人のつながりを支えるための仕事なのだ分かりました。生産作業体験では、グループごとにジッパー製造の一部を体験しました。はじめに体験内容を説明された時は、グループリーダーの役割があまりにも大変なものだと思いましたが、それをカバーするのも全員の役割であるのだと理解できました。私のいたグループは皆自分のことに手いっぱい、黙々と作業をしていました。生産量は多かったものの、不良品も多く出てしまい、同じ製品をつくる仲間とのコミュニケーションがとても大切なのだと痛感しました。工場環境を明るく、かつ製品の質を上げるために現場で求められることが何なのか、それを実行するのがいかに難しいか体感することができました。

この研修に参加するまで、私は将来自分がどのようなことをしたいのか、はっきりと分かっていませんでした。興味のある分野を突きつめ、研究者や開発者になる道をぼんやりと想像していただけでした。しかし、興味のある分野にどのように関わっていくのかを考えなくてはいけないと分かりました。また、様々な仕事の中で日本語を生かそうとするチューターさんたちの姿勢を見て、専門分野そのものが仕事をしていく上で

必ずメインにならなくてはいけないという自分の考えが固くて狭い考えなのだと気が付きました。どんなことにも挑戦する姿勢、考えを広く持って人や自分と向き合う姿勢が足りなかったのだと思います。これからは、興味があって大学で学んでいることはもちろん、人と接することなど自分が素直に好きだと思ったことにも目を向け、考えられる自分の将来の幅を広げたいと思いました。

中国・大連での企業実務研修を通して

尾山 武史

○実務研修参加の目的・動機

今回参加した動機は、今まで1年間大学生活を送ってきて、このまま卒業して社会にでたら何もできないと考え、また挫折してしまうと思い2年の今の段階から社会にでたときのようなことを心がけるべきなのか、今の自分に何が足りないのか把握して、今後の生活を変えていきたいと思ったからです。

また日本を離れ今まで生活したことのない環境で、密度の濃いスケジュールで2週間生活して、自分自身を成長させたいと思ったのも動機の1つです。

○研修内容

YKK企業説明・工場視察・勤務体験・仕事体験、三菱電機・YKK AP・大連ソフトウェアパーク・ソフトバンク・アイリスオーヤマ訪問、トナミ運輸・TAC・JTB・JAL・北陸銀行ご講演、大連外国語大学訪問、大連外国語大学日本語学院大学生の家庭にてホームステイ、旅順・開発区・丹東観光

○研修の成果

今回の研修を通して、自分自身の考え方が変わったように感じました。自分は今まで、仕事をしていくうえで大事なものは個人スキルの上達だと思っていました。そのように考える理由は、自分はアルバイトをしており、仕事の中で自分を成長させるには仕事を覚える、できる仕事を増やすことだと思っていました。仕事を覚えること、できる仕事を増やすことは自分自身の能力があがらなくてできないことなので、個人のスキルが上げることが仕事をするうえで大事なことだと考えていました。

しかし、今回の研修を通して、仕事をしていくうえで大事なものはチームワークだということ学びました。自分一人ができては意味がなく、まわりを動かし、協力して、まわりと一緒に自分自身も成長していくことが大事だということです。自分のできないことは得意な人に手伝ってもらいながらする、自分の技術をまわりに伝える、このようにお互いを支え合いながら成長していくのが社会だということが分かりました。

○まとめ

自分自身今回の研修で一番に残ったのはホームステイでした。僕は中国語があまり喋れないので、お世話になるご家族の方とうまくコミュニケーションがとれるかすごく不安でした。ですが、家にはいったとき

に、ご家族の方が笑顔で迎えてくださったとき、ホッとしました。そして、言葉は分かりませんでしたが、表情とジェスチャーで相手が何を伝えたいのかなんとなくわかることができました。ホームステイを通して僕は人の温かさを改めて感じました。国は違うが、文化は違うが、言葉は違うが、人本来のもつ温かさ、優しさはどこの地に行っても変わらないということに気づくことができました。

また同時に2週間一緒に研修を行っている仲間たちと違う場所で生活してはじめて、僕自身すごく支えられているなと感じることができました。いろいろな不安なことを仲間の支えによってカバーしてもらっているということを実感しました。今回の2週間は自分自身を見つめなおし、今まで考え方や生活を見直し、何が足りないか、どの部分を変えればよりよくなるのか、どういことをすればよくなるのかなど課題を見つけるための充実した期間となりました。具体的に今現在実行できていると感じるのは積極的に行動するということです。学びたい、知りたい、身につけたい、このような純粋な気持ちがとても大切だと改めて感じました。

そして、今後は自分が得たものをまわりに反映させていくことだと思います。自分自身が崩れず、まわりを引っ張っていけるような存在を目指し、今後努力していきます。



中国・大連での企業実務研修を通して

武田溪太郎

○実務研修参加の目的・動機

僕は今年富山県立大学に入ったばかりなので、一年前期の間は特に就職などのことも考えずにただただら過ごしていました。なんとなくこのままではまずいなと危機感を感じていたところ、このプログラムを先生が教えてくださったので何かの刺激になればいいなと思い参加しました。

○研修の感想

この企業実務研修でたくさんの日系企業の方々の講演を聞いて、日系企業が中国で成功するには何より中国になじむことが大切だと感じました。しかしただ中国になじむだけでなく、日本の良いところ、譲れない



筆者は後列左端

ところはそのままに、中国の文化、考え方も尊重していくことが大切だと感じました。

また、自分がこの企業実務研修で一番印象に残っているのは大連外国語大学で授業を受けたことです。大連外国語大学の日本語の授業はほとんど日本語で話して細かなニュアンスの説明だけ中国語で話している。生徒が皆真剣に授業に取り組んでいる。たまたまその授業を受けていた生徒でも私たちに積極的に日本語で話しかけてきてくれるなど、日本では考えられないほど勉強に対する意識が高いことが印象的でした。私たちが危機感を持って、負けずに大学でどんどん知識を吸収していかなければいけないと思いました。

また大連外国語大学の学生だけではなく、中国で関わってくれたすべての人が積極的に他者とコミュニケーションをとっていました。コミュニケーションをとって情報を共有したり、自分と他者の考え方の違いを理解するということがどんなに大切かということもここ大連で二週間企業実務研修を受けた中で身をもって体験しました。

自分は親しい人とは普段はよく話すのですが知らない人には縮こまってしまうことがよくあります。そういうところを少しずつでもいいから直していきたいなと思いました。

このたった二週間の間でもとても多くのGAPに気づくことができたので、これからもこういう機会があったらどんどん飛び込んでたくさん体験をして自分を高めていきたいと思っています。



筆者は中央

平成26年度 同窓会総会

平成26年度同窓会総会を振り返って

平成26年度総会実行委員長 吉野 靖
電子工学1期生

昨年5月、北陸新幹線開業まで1年を切り富山県全体が期待に胸を膨らませていた頃、同級生から1本の電話がありました。二期生から20年近く会っていない友人達となるべく大勢集って同窓会を盛り上げたいので、力を貸してほしいという依頼を頂きました。1年の大半を出張先で過ごし、地元富山の卒業生として中途半端な関わり方しかできませんでした。地元で過ごす時間が増えたこともあり、仲間の思いを現実のものにしたいという思いが次第に強くなってきました。よし、まず自分が一番楽しもうと実行委員長としての決意が固まり、短大部の旧友も交え同窓会に向けた準備がスタートしました。

スタート早々、出張先の中国で突然SNSが寸断され

た時はさすがに焦りましたが、帰国後、全国各地の旧友と連絡を取り合うきっかけを与えて頂き、とても充実した日々を送ることができました。また、実行委員から同窓会の思いを伝えて頂いたことが実を結び、全国各地から教職員、卒業生約100名に参加頂きました。

20年という月日が流れたとは思えないくらい、当時のアパート、バイト、先生方との記憶がよみがえり、久しぶりに出会った時間はあつという間に過ぎ去ってしまいました。仲間と共に感激とトキメキを胸に刻みこむことができ、当日までご尽力頂いた関係者に感謝を申し上げたいと思います。

今年3月に北陸新幹線が開業し、先人達の努力と苦勞をTVで初めて知りました。富山県立大学創立時にも同じような苦勞があったのではないかと恥ずかしながらこの年になって感じられるようになりました。改めて感謝の気持ちを忘れずに、富山県立大学の人の輪と活力あるマインドが醸成されるよう支え続けていきたいと思っています。



平成26年度同窓会総会 (平成26年8月15日)

理化学器機・産業器機 計測・試験機器

山本理化
山本文雄

〒930-0887 富山市五福二区5369
TEL: (076)432-1658 FAX: (076)432-1659
E-mail: yamamoto-rk@fancy.ocn.ne.jp

 **株式会社 中部設計**

代表取締役 中瀬 壽

本社 〒930-0029 富山市本町10番2号
TEL 076-442-4161 FAX 076-441-3704

 **多木肥料**

芝生と肥料と農薬

(株)岡本清右衛門商店

TEL 0766-24-0230
FAX 0766-24-1197

CREATION of NIX
それは、創る未来。

NIX

株式会社 **新日本コンサルタント**

■本社(富山市)・東京本社(東京都町田市)■新宿町オフィス
■支店: 金沢・大阪・東京(城東)■営業所: 中新川・南砺・新潟・能登・奥西(神戸)

www.shinnihon-cst.co.jp

退職のご挨拶

岡田 敏美

平成2年富山県立大学の創設時からお世話になってまいりました岡田敏美です。多くの思い出がありますが、少し紹介させていただきます。県立大学ニュースH2年10月号(第2号)には、富山にて-学生諸君へのメッセージ-と題して、一緒に勉強していこうということを書きました。そして4回生が誕生したH4年には、12月号(第13号)に大学と就職の周辺と題して大学院への進学と就職戦線への心構えなどを述べました。この心構えは、新規参入の県立大学がいかにして知名度をあげ、少子高齢化時代に生き残っていくかという課題を抱えた大学の使命について、教員としての気持ちを盛り上げようとする内容でもありました。

2000年頃にもなると卒業生の人数も増え、全学の同窓会が開かれるようになり、その都度、参加してきました。久しぶりに会って、彼らは“本当にたくましくなった”といつも思う次第です。そして、いよいよ私も県立大学を卒業することになり、今後は同窓生としてお世話になることとなりますが、よろしくお願ひ申し上げます。

ところで、私が所属してきました電子情報工学科(後に情報システム工学科と改称)の電磁波工学研究グループでは本年をもって175名の卒研生を送り出すこととなりますが、この間、一人の休学者や退学者もおらず、全員“卒業”となります。写真は、2015年3月16日の全員集合の記念写真です。写真の中央には中国

遼寧省からの研修生、周波さんがおられますが、無事、研修を卒業されることになりました。

卒研生は、いうまでもなく勉強仲間であり研究者の卵でありますので、“この研究は世の中のためになる、面白い、最新である”と理解され、意欲的に取り組める研究課題を設定してきたつもりです。太閤山の地に来て出会ったことは、“袖擦りあうも他生の縁”という言葉がありますように、一生の宝として大事にしたいと思ひます。富山県立大学で巡り合い、切磋琢磨し、お互いに成長できたことに深く感謝しております。

最後になりますが、富山県立大学の同窓会のますますのご発展をお祈り申し上げ、お礼の挨拶とさせていただきます。

*編集部注：岡田先生に大学から名誉教授の称号が授与された。(2015年6月1日付)



研究棟屋上で 2015.3.16
(前列右から2人目が岡田先生、前列右端が石坂先生)

岡田先生退官にあたり

富山県立大学工学部情報システム工学科
石坂 圭吾(2期生)

岡田先生の研究室に第2期生として1994年4月に配属されてから20年間、岡田先生にご指導いただきました。いずれご退官の日がくるとは思っていました、あつという間にその日がきたという感じです。

岡田先生には、いろいろな経験をさせてもらいました。卒業研究で研究室に配属されたばかりのとき、観測ロケット実験に参加させてもらい、富山の大学にいながら、宇宙に関係することができるといふことかかなり衝撃を受けました。これがきっかけとなり、大学院に進学し、現在に至ります。ロケット実験をさせてもらえるということも驚いたのですが、私が研究室に配属された1994年は、Unixが全盛であり、現在のDOS/V機つまりWindowsパソコンがほとんど使用されていない環境であったにもかかわらず、大学内で最初にWindows3.1が導入されました。デジタルカメラの導入も早かったことを覚えています。このように研究室には、最新の機器が設置され、学生が自由に使用できる環境を構築してくださったのではないかと思います。

岡田先生の言葉の中で特に印象に残っているのは、「10年先を見据えて行動計画をたてること」です。研究室の環境もこの言葉を反映したものになっていると思ひます。また、これは研究者として、非常に重要なことだと思ひますが、なかなかできないのではないと思ひました。しかし、これまでの岡田先生の研究室の研究

テーマを見ると、地上から宇宙空間に至る領域において電磁波の発生と伝搬に関する諸課題の解明に挑戦し、また、電磁波を利用した物質の非破壊検査技術や人・動物の位置探査技術、電波時計の高度利用技術など実用化研究を産学連携により実施してきました。どの研究課題もまだ世間の話題に上る前に研究が開始されていきました。

あともう一つ、人とのつながりが非常に大事ということも学びました。これは、他大学や企業との共同研究を通して他大学の学生や先生方、技術者の方々との交流を学生のころから経験させてもらいました。その結果として、岡田先生にご紹介くださった先生方と観測衛星や観測ロケットのプロジェクトを進めています。さらに、研究室に在籍したすべての学生にこのような貴重な経験をさせることによって、小さな公立大学の研究室にいるということ意識しないで研究だけでなくいろいろな活動をする事ができることを証明しているのではと思ひます。

私もあと20年大学教員として活動するという計画ですが、岡田先生が学生たちに経験させてくださった他大学の学生との交流、宇宙科学観測機器の開発という最先端分野へのチャレンジを学生が経験できるように研究室を運営し、学生を指導していきたいと思ひます。

最後に、研究者・大学教員として活動していけるようにご指導くださった岡田先生にこころより感謝いたします。また、岡田先生の今後、ますますご活躍いただきますことをお祈りしております。

☆☆ 平成27年同窓会総会のお知らせ ☆☆

*日 時

平成27年 8月14日(金) 15:30 受付開始
16:00 総会
17:00 懇親会

*会 場

グランテラス富山 (旧名鉄富山ホテル)
富山県富山市桜橋道り2-28
電話 076-431-2211

*懇親会参加費

7,000円 当日会場にてお納め下さい。
尚、懇親会には酒類もご用意しております。飲酒

運転となりますので、お車でのご来場はご遠慮下さい。

出席される方は8月7日(金)頃までに下記へご連絡下さい。

*連絡先

富山県立大学同窓会事務局 荒木薫
〒939-0398
富山県射水市黒河5180
TEL 0766-56-7500 (内線130)
FAX 0766-56-0396
E-mail senpyokai@pu-toyama.ac.jp

声

♣谷村 実 (技・機械1966年卒)

千瓢の記事、とても充実していて楽しく読ませて頂きました。小生も業界誌を発行していましたのでご苦労はよくわかります。これからも頑張って発行の程、期待しています。なお九里徳泰(くのり のりやす)先生の読み方がよくわかりませんでした。同窓会は出席したことがなく、過去、声をかけられましたがなかなか行こうという人が同級生にいませんでした。

♣今井 秀昭 (技・草農1965年卒)

記事から多くのことを学ばせて頂き感謝しています。

♣田中 克典 (技・機械1976年卒)

会社では環境・省エネの仕事をしています。今回の「千瓢」では九里先生の記事が載っていて大変参考になりました。

♣福井 正喜 (大・電子1999年卒)

母校を一時ですが思い出します。

♣山本 憲司 (技・機械1964年卒)

素晴らしい活躍が随所に見受けられます。食堂の一角にでも立ち寄って語り合える「スペース」の場を作るのもいいですね。

♣中島 鉄蔵 (技・衛工1965年卒)

荒木甫さん、長い間ご苦労様でした。甫会長ということで、学校を忘れることは無く、土曜になると着物姿の赤間先生(赤間宗民・茶道部顧問の先生・裏千家)を見るためにお茶をならいに行っていたように思います。

♣荒永 隆司 (技・機械1988年卒)

毎号楽しみに「千瓢」を拝見しております。今回「島谷信さんの追想録」というタイトルの特集がありましたが、私が在籍中勉学でお世話になった先生であったこともあり非常に懐かしく思ったのと、ぜひこの追想録を拝見したいと思った次第です。

編 集 後 記

▼前回同封した「アンケートはがき(料金受取人払)」が好評なので今回も同封しました。同窓会や機関誌『千瓢』に対する意見をお寄せ下さい。クイズやプレゼント(「ささやきコーヒー」やワイン)の応募にも利用して下さい。

▼前年に続いて、今年の同窓会総会はお盆の8月14日(金)グランテラス富山(旧名鉄富山ホテル)で開催されます。お友達と一緒に参加をお願いします。

▼去年の総会で、同窓会長が替わりました。新しい野開勝政会長の誕生です。20年以上会長の重責を勤められた荒木甫前会長にはご苦労様でした。

今回の巻頭対談は新旧会長の対談です。感想をお送り下さい。

▼富山県立大谷技術短期大学・富山県立技術短期大学・富山県立大学短期大学部の同窓会(千瓢会)と富山県立大学工学部同窓会が一緒になり富山県立大学同窓会ができ、一緒になって初めての同窓会名簿が発行されます。

▼「かまぼこチップス」(先号で紹介)に続いて「ささやきコーヒー」を紹介します。地元黒河の竹炭を使ったコーヒー、商品化され好評で、売れているとのこと、その開発秘話。

▼今号の「探しています(会員住所不明者リスト)」の人数が大変多くなりました。名簿発行のために住所確認を行った結果です。リストに載っている人の住所等ご存じの方はお知らせ下さい。では次号の第11号まで(池上 勤・2015/06/18)